

鳥獣の 保護管理 被害対策

クマを誤って捕獲しないように！ ～ モニタリング調査とWeb-GISを用いた錯誤捕獲の回避技術 ～

研究の背景・目的

西中国山地のツキノワグマは、日本版レッドデータブックで「絶滅のおそれのある地域個体群」とされています。しかし、養蜂やクリ園、民家庭先のカキや蜜胴への被害が多く、またイノシシ捕獲用の脚くくり罠や箱ワナによる錯誤捕獲が増加して問題となっています。そこで、生息実態の把握や捕獲個体の調査で得られた結果を「特定鳥獣保護管理計画」へフィードバックし、適切な保護管理技術を確立します。箱ワナの位置とクマの目撃情報をWeb-GISで把握し、錯誤捕獲の回避を試みます。

研究方法

西中国山地の生息環境と個体群の生息実態を調査します。捕獲された個体は、年齢、栄養状態、食性、繁殖状況などを調査します。イノシシ用の箱ワナの位置と目撃情報等をWeb-GISで管理することによって錯誤捕獲を減少できるかを検証します。

研究状況

人里への出没が多かった平成18年度の捕獲数を表にまとめました。捕獲は、8～11月に集中していました。捕獲個体の年齢は0～21歳で、0～3歳の若齢個体が25%を占めました。有害捕獲個体の栄養状態は、錯誤捕獲個体に比べて悪いことが分かりました。錯誤捕獲個体の胃内容物は、動物質や双子葉草本など自然に由来するものが多く、有害捕獲個体は、カキや養蜂のミツバチなどの誘引物を多く認めました。

Web-GISによる分析では、必ずしも目撃が多い場所で錯誤捕獲は発生していませんでした(図)。

表 平成18年度の捕獲区分別の捕獲頭数

月	有害鳥獣捕獲	錯誤捕獲		緊急避難	交通事故
		箱ワナ	脚くくりワナ		
4	0	3 (2)*	0 (0)	0	0
5	0	0 (0)	0 (0)	0	0
6	1	0 (0)	0 (0)	0	0
7	1	3 (3)	0 (0)	0	1
8	5	5 (5)	0 (0)	0	0
9	9	8 (7)	0 (0)	0	1
10	8	2 (2)	2 (1)	1	0
11	4	4 (1)	8 (5)	0	0
12	0	3 (3)	4 (2)	0	0
3	0	1 (1)	0 (0)	0	0
合計	28	29 (24)	14 (8)	1	2

(*)内は捕獲後に放獣したもの。



図 2006年8月の目撃と錯誤捕獲の位置

研究成果の活用

生息環境、生息実態の把握や捕獲個体から得られた分析結果を「特定鳥獣保護管理計画」へフィードバックして、今後の適切な保護管理技術を確立します。

Web-GISによる錯誤捕獲回避技術の確立によって、錯誤捕獲数の減少が期待できます。また、目撃位置をリアルタイムで入力することによって、最新の目撃情報を提供できます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

所属グループ 鳥獣対策グループ

担当研究者 澤田 誠吾(さわだ せいご)

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3819
E-mail: chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: ツキノワグマの保護管理と錯誤捕獲回避技術の開発
～ Web GISを用いた錯誤捕獲回避技術の検証 ～ (H18～20年度)